



発行 2022年7月1日

**7** 月 第245号

**奈良・人と自然の会**



<佐保台小学校5年生の田植え体験学習>



## Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	季節のエッセイ	8
Monthly Repo ならやま	2	新ならやま投句箱	9
里山の今(里山・エコ)	3	昆虫講座	10
ワクワク! ドキドキ! お山を歩こう・レポ	4	行事案内-1、きのこだより	11
田植え・レポ	5	行事案内-2	12
月例研修会・レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
低山をさがして	7		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

コロナ禍はようやく峠を越えつつあるように感じられるが、世の中、ウクライナ、円安、物価高と不安が付きまとう。暑い季節がやってきて、高齢者集団としては油断できない。7月からは活動時間を8:30~12:45とし、午後は自主活動とすることになった。

6月は恒例となっている田植え体験学習が行われ、佐保台小学校児童の歌声も聞かれた。月末には春の感謝祭も予定され、久しぶりにならやまカレーがふるまわれることになっている。また、7月には里山で遊ぼう①で、人数制限も解除され多くの参加が期待される。

果樹グループ、エコファームグループでは鹿害対策に苦勞している。畑には鹿対策ネットが張りめぐらされその効果に期待したい。雑草の成長も顕著で、草刈り隊も忙しい。生き物の活動が最盛期を迎え、ならやまでも忙しい日が続く。熱中症をはじめ、体調管理に心掛けなければと思う。

6月7日、大変悲しい知らせがありました。これまで活動を支えてくれた平田範光さんに心から感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

## 7月の活動特記事項

協働活動：7月7日 アダプトプログラム

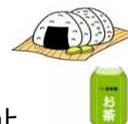
夏だ！休みだ！里山で遊ぼう①：7月16日（降雨確率50%以上：7月23日に順延）

## 7月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、薪割り、下草刈り ユート：アカマツの森でのマツの間伐
エコファーム	水田整備（ヨシ敷草処理試行）・除草、ナス支柱立て、トマト覆い設置、ジャガイモ跡整備、さつま芋の移植、里芋の除草・灌水、カボチャや瓜などの収穫、畑のチップ入れ
景観	整備：彩の森・BC周辺、佐保自然の森の草刈り、養蜂巣箱の整備 ビオ：西池改修、水路・木道整備、水生生物調査 花：紫陽花園、山野草園、自転車道沿い花壇の草取り
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備（階段、ロープ他）、笹草刈り、学びの森ベンチ改修、掲示板前溝蓋設置、保護植物の説明会と実地見学を実施
果樹	実りの森除草、ブルーベリー収穫、灌木整理、ウメの軽剪定

活動日： 毎週木曜日 8:30~12:45 (7月7日から当面の間、暑さ対策として)

前日水曜日の19時現在の気象庁予報（NHKTV 奈良 19時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日にも同予報であれば中止



## Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

5月26日(木) 晴のち曇り 75名

コロナ禍ではあるが、熱中症の危険があるため、ならやまで活動中はマスクの着用は義務化せず、各自の判断にゆだねるとの話があった。各Gへ月末の備品調査のお願いがあった。午後、ならやま委員会を行った。里山Gは枯死木伐倒及び枝の整備、下草刈り、薪割りなど。エコGは落花生の種播き、鹿対策ネット張り、レタスなどの収穫。景観Gは彩の森、第3駐車場、学びの森周辺の草刈りなど。花班はアガパンサスの草取りなど。パトGは2コースのパトロール、倒木処理、掲示板の高さ調整など。果樹Gは竹、小枝などのチップ作業と山菜畑の除草などを行う。



6月2日(木) 晴れ 83名

協働活動として、里山G中心で椎茸榎木本伏、天地替えを行った。景観Gは第2駐車場の草刈りとアダプトプログラムを行った。古川さんの紹介で柴田さんが入会された。また、28日のGGイベントが無事終わったことの報告、協力してくれたスタッフへのお礼などがあった。里山Gは椎茸榎木の協働活動、枯死木伐採及び枝の整備、薪割りなど。エコGは水田の代掻き、鹿対策、野菜の収穫など。景観Gは第2駐車場の草刈り、緑陰広場などの草刈りとアダプトプログラムの手伝い。花班は道路沿いの花壇の草取り、千日紅、百日草の移植。ビオ班は協働作業、ビオエリアのゴミ撤去、水路掃除など。

パトGは3コース周辺の草刈り、花壇の整備、ミーティングなど。果樹Gは協働活動と、給水タンクの掃除、チップ作業などを行った。



6月9日(木) 晴れ 67名+佐保台小28名

先日亡くなられた平田副会長の冥福を祈って黙祷を行う。当会の図録が新聞各紙に掲載されているとの報告があった。例会の案内、梅の販売の連絡などを行う。14回目の佐保台小学校の児童25名が参加した田植えの体験学習を行い、TV局、新聞各社の取材があった。里山Gは区分2のソヨゴの伐倒と下草刈りなど。景観Gは田植えの応援、BC、自転車道周辺の整備など。花班は道路沿い花壇の整備。ビオ班は西池水生生物調査と蓮池の修復工事など。パトロールGは1コースパトロール、田植えの応援、四季の丘の竹林伐採など。果樹Gは田植えの補助、梅の収穫などを行った。

6月16日 晴 73名+近大生4名

近大生が参加して、ペタキンなどの調査を行う。里山GはNO.2、3の常録樹(ソヨゴ)の伐倒と整理、観察路の草刈り、薪割りなど。景観Gは竹のチップ作業、緑陰広場、第3駐車場、四季の丘の草刈りなど。花班は道路沿いの草刈り、シャガの移植など。ビオ班は近大生とペタキンの調査、蓮池の補修など。パトロールGは2コースのパトロール、観察路の笹刈り、銘板の取付けなど。果樹Gは水田での作業の補助、梅の収穫、販売、キウイの植え替えなど。ユートピアクラブは赤松の間伐と下草刈りなどを行った。

里山G



エコファームG

◆平田リーダー

高城 光一

「ならやま」は田植えも終わり、まもなくホテルが飛び交う一年で最も生命力溢れる季節を迎えました。いのち溢れるこの時期に里山グループは大切な方を失いました。6月7日グループリーダーの平田範光さんが突然に急性心不全で亡くなりました。ご家族さまには謹んでお悔みを申し上げます。

私が「ならやま」に来れば必ず平田リーダーの指示を受けるのですが、指示内容はいつも簡潔で余計な話はなかったです。さように平田さんはどちらかといえば寡黙な方でしたが、ある時、血圧の話になり「わしは降圧剤を飲んでいる」と吐露されたことがありました。そのせいか平田さんはいつもゆったりと動かれていたように思います。私も医者からは「家庭血圧測定」を勧められており、平田さんの訃報を教訓に即刻実行せねばと思ったところです。

平田さんのプライベートな生活面は殆ど聞く機会がなかったのですが、羽尻さんに聞くと、平田さんは囲碁の相当の打ち手だったようです。2016年頃、囲碁同好会を立ち上げ、「囲碁をして一杯」という楽しいひとときもあったとか。私も若かりし頃から囲碁を嗜んでおり、そのことを知っておれば「是非一局を」となっていたと思われ、悔やまれるところです。

ならやまの活動の中で、平田さんが格別の想いをもたれていたシイタケ栽培の現状について一言。現在3つのホダ場で約1000本の榎木が栽培されていますが、今年植菌したのは150本でした。今年のは二夏超えの来年秋に収穫を迎えますが、シイタケ栽培はデリケートなためそれなりに面倒をみる必要があります。

さて、平田さんの後任を山本隆造さんをお願いすることになりました。心新たにゆたかな里山を目指して私も一助となればと思っています。

◆遂に歌った「田植え」の歌

吉川 利文

わが国古来、田植え行事は神事であり、芸能であった。いずれにも、主食としての米の豊かな実りを願う民衆の気持ちが込められていた。

そんな歴史と伝統を児童たちに実感してほしいくて、何年も前から佐保台小学校5年生の恒例の田植えて、唱歌「田植え」を歌うことを念願してきた。

昨年、顧問鈴木末一さんの事前学習に“押しかけ同行”し、学校に合唱を提案しようと思った。しかし、新型コロナウイルスが猛威を振るっていた時期で、校長から「合唱は自粛させているので…」とやんわり断わられた。それでも教室で伴奏のつもりで持ってきたICレコーダーをかけると、低くハミングする声の流れたり、田植えの日、やはりICレコーダーに合わせて忍ぶような歌声が流れた。

この初夏、奈良県のコロナ新規感染者数が低迷していた。時は来た。事前学習の際、新任の校長に打診したところ、「いいですよ。やりましょう。コロナ対策を忘れずにね」と乗り気。

教室では、昔から田植えでは踊りや歌で豊作を祈願したこと、それが芸能のルーツとなり、わが国最高の伝統芸能「能」に結びついたことを説明。児童たちに「田植えの時、水田で合唱しませんか」と提案したところ、「やるーっ」。

6月9日の当日、ICレコーダーの調子が悪くなるなど小さなハプニングがあったものの、急きょ担任教諭がギターで伴奏してくれ、児童たちは大きな声で「えそろた、でそろた、早苗がそろた、植えよ、植えましょ、みんなのために…」と歌った。田植えての合唱のきっかけを作ってくれた吉村さつきさんも、コーラス隊として応援を引き受けてくれた桜木晴代さんらも歌った。私も歌った。14年目を迎えたこの田植えは今年、ひとときわ意義深く感じられた。

わくわく！ ドキドキ！ お山を歩こう！  
イベント・レポ

小島 武雄

5月28日 Green Gift 地球元気プログラムの一環でもある「わくわく！ ドキドキ！ お山を歩こう！」を開催しました。

最初に千載会長の歓迎挨拶、辻本さんの安全注意の後、NPOセンターの浦林さんの挨拶。2班に分かれて10時からスタンプラリーの始まりです。



まず1番、野菜の名前当て。エコファームでは三瀬さんが子どもたちを畑に導き、生育中のカボチャやシシトウなどを間近で楽しみました。2番、シダの飛行機。四季の丘に上がり、有元さんが事前に用意したウラジロ飛行機を飛ばしました。なかなか上手に飛んでくれませんが、渡されたウラジロがうれしくて離さずに持って行ってしまいました。そこからロープをつかって下る坂は、恐々や、楽々の子も、またやりたいと貴重な経験のようでした。

3番、昆虫クイズ。菊川さんが機関車の上で、まるで紙芝居のようにクイズを出してくれました。



小さい子にもそれなりにクイズを楽しんでくれました。4番、キノコの話。守口さんが高間さんから受け継ぎ上手に話されました。赤いキノコが付いた木の枝を見ると、中にもぎっしりと赤い菌糸が入りこんでいるのを見て、保護者もワッと驚いていました。5番、小羊歯(コシダ)のピョンと大極殿を眺める。山本美智子さんと飯島さんが、小羊歯を細かく切ってピョンと飛ばすと、歓声が上がりました。小さな子は、指の感じがうまく弾けないようです。ここからは遠くに大極殿が見えて保護者の方が楽しそう。6番、アスレティック。松尾さんが安全に見守ってくれました。ロープ渡りは楽しくて何回も

何回も渡り、時間がたきません。7番、野草の観察。緑陰広場では、辻本さんが待っていてくれます。工夫を凝らした、野草カルタは小さい女の子がびっくりするほど素早く探し当ててくれます。保護者もつい本気になるほど、楽しみました。8番、ジュズダマと春の小川。桜木さん用意の原稿を千載会長が慣れない説明ですが丁寧に行いました。すぐそばの小川に笹舟を浮かべると、すうーと流れていきます。うれしくてそばの野苺を乗せている小さい女の子もいました。9番、ビオトープ。田中さんが、ザリガニやメダカを大きなタライに入れて、周りを囲んだ子らに、さわらせてくれました。ザリガニをつかんで、なかなかタライから離れません。

最後は10番、竹林をザワザワ歩く。太田さんお待ちかねでした。きれいに整備された真竹林に入り、竹の説明も少しにして、早速たけのこ掘りです。大人も子どもも歓声を上げて、思いつきタケノコを蹴っ飛ばしていました。これ本当です。飯島さんが作ってくださったスタンプ帳は大好評でした。各ポイントで競うように押していきます。完成スタンプを満足そうに眺めて、大事に持ち帰った様子。



日本NPOセンターの浦林さんも東京から駆けつけていただき、子供たちと一緒に参加され楽しんでおられました。「こんな自然いっぱい場所で、思いつき外で遊べて子供たち幸せ、もうマスク要らないですね」との事。アンケートの後、各ポイントでの時間が5分では足りずに予定より伸びてしまいましたが、約20分遅れの12時40分頃にイベントは無事に終了しました。参加の皆さまへお土産はジュズ玉、鹿の折り紙、真竹の筍。スタッフには、子供たちの元気な笑顔がお土産の一日でした。

参加は子供たちと保護者8名、GG担当の浦林さん、準備を含めて当会スタッフ26名でした。

## 田植え体験学習レポ

三瀬 英信

例年は梅雨の合間をぬっての体験学習だが、今年の梅雨はすこし遅れていて、薄曇りの天気の中で、佐保台小学校5年生たちが息を弾ませて高揚感に満ちた元気な姿でならやまへやってきた。

今年で14回目を迎えたが、当初は10名程度だったと聞くが今年は25名と年々増加している。



予定の10時より少し前に担任の柴先生と田中教頭先生の誘導でサイクリング道路の水田南側に到着。直ちに、エコの女性会員により赤たすきを掛けてもらい開会に臨んだ。生徒たちは整然と座り富井ならやま委員長の歓迎のあいさつに続いて、6日の事前学習で既に顔なじみの鈴木顧問の再会のあいさつと田植えの具体的な要領や注意事項などを、熱心に聞き入っていました。

例年のように生徒たちは名前を書いた名札を持ち水田西側の畦(あぜ)へ並び、男子生徒18名は北の水田「はぐくみ」、女子生徒7名は南の水田「未来っ子」に北から南へ並んで田植え準備万端。

始まる前に、担任の柴先生のギター伴奏に合わせて「田植え」の歌の全員合唱が始まった。実は事前学習の折に同席していた吉川会員の提案で「田植え」の歌を全員合唱することは校長先生と話がまとまっていた。ならやま女性有志の合唱隊も立ち上がっていたが、柴先生のギター伴奏で生徒たちと一緒に合唱することになった。子供たちは練習の成果を発揮して一番二番を通して声高らかに歌い上げ、田植え気分を盛り上げた。

いよいよ田植え。恐る恐る足を入れ、「ひゃあ～冷たい！」と足を上げる子。一足踏み入れて、「ヌルヌルして気持ち悪い！」と、子どもたちの



叫び声が響いた。大人たちも大変だ。「大丈夫よ…」、「ゆっくり歩いて…」と、励ましながらの指導。

はじめは遅々として進まない。大丈夫かと思っている内に次第に慣れてきて足さばき手さばきも良くなってきた。一列ずつの合図にも調子が合ってきた。北の水田「はぐくみ」は全体が軟弱で東側近くに深い所もあり、子供の転倒が心配だったので途中で止めることも考えていた。



水位も高めで条件が悪く、「未来っ子」に比べると出来映えは少々劣ったが、男子生徒は転倒することもなく頑張って植え切った。最後の一列が終わるとどこからともなく拍手が聞こえてきた。

報道各社の取材も例年になく熱心で長時間のインタビューもあった。畦にしゃがんだりうつ伏せになったりして、子どもたちの一挙手一投足を逃すまいとカメラに収めていた。夕刻のテレビ放映はもちろんのこと、翌日から新聞各社に掲載され関係の皆さんからの反響の声が届いている。

田植えの後手足を洗い、終わりの会に望んだ子どもたちには達成感が感じられた。感想を述べた生徒の言葉には体験学習の実感がこもっていた。

田植えに続き、生育観察会、秋には稲刈り、脱穀までの水稻栽培体験学習が行われて、子どもたちの自然環境保全に対する関心が高まることを期待したい。

月例研修会・レポ

矢田寺のアジサイ・矢田丘陵（松尾寺）  
を散策しよう（変更）→  
矢田寺から矢田坐久志玉比古神社へ

有元 康人

6月14日（火）朝から霧雨の中、13名の参加で始まりました。今回は、雨天で予定を短縮（矢田丘陵の松尾寺までの散策を中止）して行われましたが、臨時バスで矢田寺まで行くと雨もあがり最高、矢田寺まで長い石段を一步一步踏みしめて、登っていきました。

ならやまで鍛えた皆さん、元気いっぱい。

石段の上からは、大和郡山市が一望でき、前は雨上がりのアジサイ、素晴らしい景色です。



最初に60種一万株のアジサイを鑑賞。

矢田寺では、この時期だけの特別拝観が行われており、本堂に入ってみました。



矢田寺は、天武天皇の命で、智通僧正（玄宗三蔵に法相宗を学び日本に伝えた）が開基されたお寺で、本堂に安置された、中央の地藏菩薩立像、左の十一面観音立像、そして右の吉祥天立像の三尊を仰ぎ祈ってきました。

一方で閻魔堂があり、中央に閻魔大王がおられ、両脇に十王がおられます。三途の川を渡るためには、六文を渡し、その後五十七日の裁判

を受け、地獄行きが決まるそうです。

心配な方は、矢田山に行き、内容を確認されたほうが良いと思います。

本堂前に、菩提樹の木があり、クリーム色の花が下向きに咲いていました。会員のYさんによると、仏教の菩提樹は日本では気温が低く、育たないそうで、この木は別の種類だそうです。葉の下から下向きに花が咲き、種ができると、葉がプロペラになり飛んでいきます。



矢田寺を出て、次の見学予定の、やたにいますくし たまひこじんじゃ矢田坐久志玉比古神社に行きました。楼門の上に戦闘機のプロペラがある珍しい神社。



物部氏の祖神といわれている、くしたまにぎはひのみこと櫛玉饒速日命に関する伝承が残る。天孫降臨に先だって、ニギハヤヒノミコトが天磐船から3本の矢を射てその2本目が、楼門に落ちた場所とされています。それでこの地が「矢田」と呼ばれる由来です。

境内で昼食をしていると雨がポツリ、急いで13時16分のバスで退散、短縮例会になりましたが、13名全員楽しめたと思います。

## 低山をさがして

岩崎 雅子

週1で、行先をさがして山に行こう！  
これが、結構頭をなやませているのです。  
さて、次はどこいこ！？  
脚にあった低山はどこ？

行先を求めて早朝に目が覚めてしまうのです。  
行先が決まれば、下山の後の予定。反省会と称する、飲み会の“肴”何にしようか、とまた頭を悩ませるのです。この楽しみは無くしてはならない一日のしめくりと次回の活力の源だと思っています。

以前は外食で、高くつくなあ。と。  
安く上げようと、我が家を開放！ 安くて美味しく。2、3品は考え、後は寄り道スーパーで。これもボランティアのひとつと楽しんでいます。山行き仲間もいい年齢ぞろいで、相方が体を悪くしたとか、本人の膝がそろそろ限界に、など、先が見え隠れしてきました。

ここいい景色！ 楽々コースは老後行く所と記憶に残しますが、記録に残さないと、どこだったっけ？ なんだかんだと今のところ行く気マンマンで楽しんでいます。

半ページでは足りないよ～ とメールが入り、えー？ これが精一杯の私ですと、言いたいです。

仕方なく、今日の出来事を。

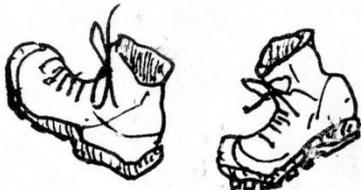
6月4日の夜行バスで、只見湖から入る尾瀬と三条の滝を計画。5日、6日が行動日で、気持ちはあちらに向かっていたのですが、天気予報を調べたら予報屋さんの多いこと！ 雨70%、60%、小雨、豪雨、曇り等々。いろいろ。

ウインドサーフィンをしている兄なら確率の高いwindyで調べてくれるかも。メールをくれるが予報は日々かわる。

積雪が今年は多く残っていると言うし。尾瀬ヶ原だけならいいのですが、妹と2人、三条の滝が目的なので。ビジターセンターに問い合せて、今回は見送る事にしました。積雪が多く、雪解けシーズンで最も危険な時期と脅されました。

山小屋にキャンセルの電話を入れたら、前日に相談した人で「それがいいですよ。気持ちよく歩いていただける日にお越し下さい」とさ！ やさしい言葉に救われました。

中止して、また気候のいい時に行こう！！



岩崎 雅子

### 季節のエッセイ

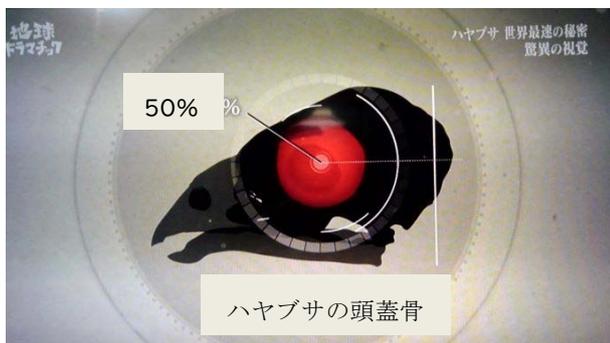
都会に進出し  
大繁栄のタカの仲間たち

小田 久美子

ハヤブサは、南極を除く全ての大陸に生息していますが、絶滅危惧種でもあります。並外れた能力からか、古代エジプトでは絵にも描かれミイラにもされる鳥でもあります。



2007年 交野市ほしだ園地、巣に入る



視力は鳩の4倍、獲物を獲る時は鳥類界最速の、時速300キロを出す事が出来ます。高速で降下する時にも獲物にピントがしっかり合っていて、動体視力が半端なく、心拍も乱れません。鳥だけでなく、正に生き物界最速なのです。

本来は、海岸沿いの断崖絶壁が大好きですが、30年程前から都会のビル街に進出。雀や鳩など獲物が多いので、環境に適応し数を増やしつつあります。堺や金沢のビルでも見えています。

2012年、イトカワを目指していた「ハヤブサ」が一時コントロール不能になりながらもやっと帰還しました。その名前とその物語性から、日本中の皆さんが感情移入して、まさに命が燃え尽きる時に立ち会い涙しました。

そして今回、探査機「ハヤブサ2」が小惑星リュウグウから持ち帰ったサンプルから、生命の元になるアミノ酸などが発見されると6/7の新聞記事がありました。流石「ハヤブサ」です。



チョウゲンボウも同じ理由で都会に進出し始めました。ビルのダイニングで料理中です。



ツミは日本最小のタカ（大きさはペットボトル約500ml大）で、幻のタカといわれていました。雌雄で目の色が違います。



ツミ♂



ツミ♀

でも、都会はカラスの親分さんたちの「縄張り」でもあり、その厄介な隣人たちとの攻防と、人間社会の近くでの交通事故というデメリットもあり、なかなか楽な環境でもありません。

オオタカも一時は絶滅危惧種でしたが、数を増やして身近な鳥になりつつあります。

(写真・小田久美子, NHK「ダーウィンが来た」)

新ならやま投句箱

俳句

放課後の校舎に流る夏は来ぬ

笠井 文夫

児童の絵図録「木々」表紙風薫る

岡田 安弘

老鷹の声に薪割ティータイム

中井 弘

虫農薬そばかすもあり南高梅

古川 祐司

玄杭に世を睥睨し蛙座す

八木 順一

青田風畔の昼餉の玉子焼き

藤原 勲

ガラス窓雨だれの描く絵に見とれ

千載 輝重

風薫る青春賛歌傷いて出る

羽尻 嵩

梅雨空や駅で待つてる傘一つ

田中 善英

比叡山回峰の道に九輪草

坂東 久平

葉の陰に紅き珠玉や残りグミ

阿部 和生

新ならやま投句箱へ沢山の投句ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

朝露にシカの足跡ナス虫残

富江 文雄

紫陽花や母の手を引く初瀬の階段

澤田 好男

夏は来ぬ「てっぺんかけたか」こだます

山本美智子

子ら笑顔春の小川に笹舟浮かべ

桜木 晴代

花の雨遊きし老師の笑みに記帳

八木 健彦

母の日のポットで愛でる紫陽花よ

岸田 玲子

梅実リジャムか酒かどにぎやかだ

紫田 秀男

川柳

暑なるなあ阪神負けたら寒なるなあ

トラ吉

にこやかに交わす挨拶誰だっけ

ペコちゃん

交流戦勝つても負けてもビッグボス

たけちゃん

もう良いかコロナ怖いが集いたい

ハーちゃん

里山の空気旨し若蛙

カズちゃん

ウメの病害虫-2

(病害虫講座-45)

病原菌も頑張っています



木村 裕

【黒星病】

果実の代表的な病害で、果実の表面に緑黒色の2~3ミリのすす状の円形の病斑がいくつも現われ、その部分は浅く凹みます。

枝上で越冬した病原菌が発生源となり、花が終わって小さな果実ができ始めた頃に孢子が飛び散って果実に感染しますが、被害症状が見え始めるのは5月に入ってからです。

潜伏期間中は症状が現れませんが、前年に発生した樹では枝上に菌が残っていますので、冬季と幼果の頃の薬剤散布が欠かせません。



【モンシロドクガ】

4~5月頃、黄色と黒色のツートンカラーの綺麗な毛虫が発生して葉をかじります。集団で発生することはありませんが、毛に毒があるので触れないように注意。

ウメでは、マイマイガ、オビカレハ、ヒメシロモンドクガなどの毛虫もときどき発生します。



【ウメエダシャク】

黒地に黄色の小さな斑紋があるシャクトリムシが発生することがあります。発生する園では毎年発生するようですが、葉が丸坊主になることはありません。

成虫はモンシロチョウくらいの大きさの蛾で、白地に黒い筋紋があり、6月中頃にひらひらとウメの近辺をよく飛び回っています。



【ウメシロカイガラムシ】

幹や枝に長さ1~2ミリの、円盤状の白い口物質物が付着します。貝のかきの小型版です。針で円盤を剥がすと黄色の柔らかい虫が見つかります。発生が多いと枝全体が白い貝殻で埋まることもあります。脚はなく、ずっと固着したままで樹液を吸っています。防除は手間がかかりますがブラシ等でこすり落とすことです。



# 行事案内 Part 1

公開イベント

## 「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①」

今年も楽しい夏休みが近づいてきました。昨年は人数制限をしたためにあっという間に30名の定員に達しましたが、今年はウイズコロナが定着する中で、人数をもとに戻してたくさんの子供たちを迎えての開催となります。また、以前のように、飯盒炊爨を挟んでのイベントとまではいきませんが、精一杯楽しいものにしたと思います。皆さんのご協力をお願いします。

### <開催内容>

1. 日時：7月16日(土)  
9:00~12:00(受付開始8:30)  
前日19時前のNHK天気予報で奈良県北部の降水確率が50%以上の場合は7月23日(土)に延期。
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 内容：昆虫観察、植物観察、里山遊びなど。
4. 参加費用：無料
5. 募集人数：小学生のご家族合わせて60名
6. 申込方法：7月1日よりメールにて受付。

担当：千載、尾崎、豊田



きのこだより

高間 祥子

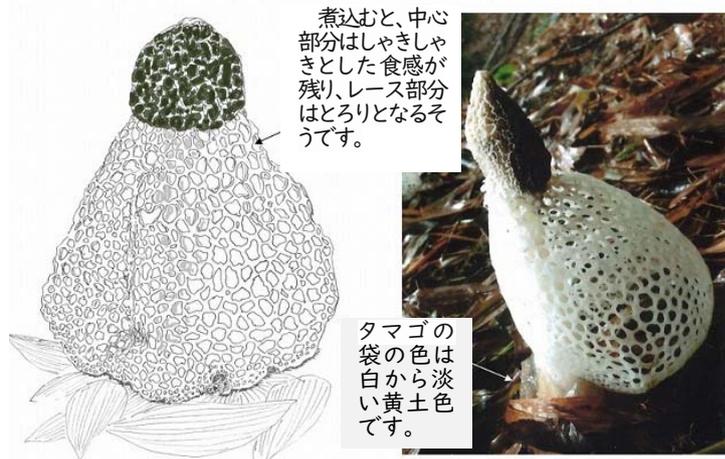
「きのこの女王」と呼ばれるキノガサタケは、非常に美しいきのこです。中華料理の高級食材ですので、召し上がったことのある方もおられるかと思います。ちなみにキノガサ(衣笠)とは、昔、高貴の人が外出する時に後ろから差し掛けていた、絹で張った長柄の傘のことです。

このきのこは、梅雨時期、竹林で見られることが多いです。まず、5cmくらいのタマゴが地面に現れます。明け方、頂部が割れて、柄の部分が伸び、レース状のマントが頂部から垂れ下がります。成長スピードはとても速く、昼前にはしぼんで倒れてしまいます。

頂部の「グレバ」と呼ばれる部分には、かなり強い匂いがします。この「グレバ」には、胞子が作られており、匂いを放つことでハエなどの虫を呼び寄せて、胞子を遠くまで運んでもらうのです。

以前、ベースキャンプの横で発生したことがあるそうなので、またどこかで見られるかもしれませんね。竹林の地面に白いタマゴが顔を出していたら、翌日から数日以内に成長を始めます。持って帰って観察するのも面白いです。そ

### キノガサタケ(衣笠茸)



煮込むと、中心部分はしゃきしゃきとした食感が残り、レース部分はとろりとなるそうです。

タマゴの袋の色は白から淡い黄土色です。

の時はぜひ録画してみてください。

# 行事案内 Part 2



月例研修会・夏季研修会のご案内

## 世界遺産・高野山(宿坊)・九度山の自然と歴史散策

富井 忠雄

高野山は約1200年前に弘法大師によって開かれた真言密教の修行道場であり、全国に広がる高野山真言宗の総本山です。標高900mの山の上に壇上伽藍の聖地があります。その中の釈迦文院の宿坊に泊り、精進料理・朝のお勤め体験などいたします。また女人道巡り、1000m前後の道、明治の初めまでは女性が山内入ることを禁じていました。そのため高野山の各入口には女性の為の籠り堂として女人堂が作られ、女人信者は、御廟を拝みたいと八葉蓮華の峰々を巡りました。今回はその女人道を約5km歩きます。夏は地上より約8~10度位低いと思われまます。2日目は、九度山の真田庵・慈尊院など拝観予定。

- 1.日時：令和4年8月1日(月)~2日(火)
- 2.集合：近鉄奈良駅前奈良商工会議所前 9時
- 3.持物：飲物、雨具、ハイキング靴、ストック
- 4.会費：2万円(宿泊代、昼食、バス代など)
- 5.宿泊：宿坊・釈迦文院
- 6.申込先：富井 忠雄
- 7.行程：1日：奈良商工会議所前→京奈和道↓紀北かつらぎIC(トイレ休憩)→西高野街道→壇上伽藍→昼食(丸万)→女人巡り→奥の院前→壇上伽藍(金剛峯寺)→16時頃釈迦文院(宿泊)
- 2日：釈迦文院8時45分→一の橋9時→奥の院→中の橋→昼食(はちよう)→九度山道の駅→真田庵→慈尊院→丹生官省符神社→高野口IC→京奈和道→近鉄奈良駅前 17時30頃



自然教室チームだより

## 燕の罫入り 自然観察会のご案内



富江 文雄

毎年春に南から渡って来るツバメは夜に集まって眠る場所を持っています。天候等の条件で変わりますが、数百羽程度の小さいものから5万、10万羽にもなる大きなものまであります。集団ねぐらをつくる場所は主に大きな川の河川敷や広い湿地にあるヨシ原です。

ツバメはヨシの茎の先端や葉に止まって夜を過ごします。集団ねぐらをつくる理由は、天敵であるヘビ、タカ、カラス等から身を守るためとか、エサが豊富にあるところの情報交換等といわれていますが、はっきりしたことは分かっていません。

集団ねぐらをつくる鳥は他にもハクセキレイやムクドリがいます。

ねぐら入り観察の見どころは何と云っても壮大な迫力にあります。日没30分前頃からぼつぼつ集まり始め数千、数万ものツバメが舞い集団ねぐらへと一斉に降りてゆきます。そして完全に日が暮れるとそれまでの賑やかさがピタリと収まり、静かな眠りにつきます。

平城宮跡のヨシ原は関西でも有数のツバメのねぐらです。例年ならば最盛期にはおよそ6万羽のツバメが集まって来ます。それらが見ている我々の頭上すれすれを飛び回ってヨシ原に降りる様は本当に迫力満点です。

ぜひ観察会に参加してそれを体験してください。

- 1.日時：8月8日(月) 17:30
- 2.集合場所：近鉄大和西大寺駅北口
- 3.観察場所：平城宮跡、大極殿西側
- 4.雨天実施の有無：申し合わせ通り
- 5.担当：富江 文雄

山本 美智子

**2022年6月度 幹事会報告**

日時：5月31日(火) 14:00~16:00

I. 会計、総務部より

- ・通常総会報告：総会は成立し議案は全て可決
- ・会員動向：153名(1名退会)
- ・会計報告：収支報告あり

II. 活動・行事関係

\*ならやまプロジェクト関係

- ・6/9 佐保台小田植え前の代掻き 6/2に
- ・6/2 椎茸の本伏せ・天地替え、アダプト
- ・動力機器使用者リスト、適任かどうか再確認
- ・チェンソーによる周辺の人に対する障害はボランティア活動保険の対象外。森林ボランティア保険を別途付保する必要あり。平田担当
- ・夏時間は様子を見て判断。熱中症に注意を
- ・梅・紫蘇ジュースは提供しない(麦茶も)
- ・エコ、果樹Gパークチップの引き取り予定
- ・不要木資材等の提供あり、6/10引き取りに
- ・7/16、8/27、9/17 各イベント予定
- 芋掘りイベント 10/29に変更 予備日 11/5

III. 企画、助成金事業案件

- ・自走式刈り払い機購入、刈払機安全講習開催

IV. 喫緊、提案事項

- ・害虫(クビアカツヤカミキリ)発見次第除去を、発見時報告義務あり。桜などバラ科の樹木に被害を及ぼす
- ・マスクは熱中症対策として原則は外すとしますが、着用は自由とする

V 広報関係

- ・7月号編集内容確認、各Gのトピックス記事

VI 報告、連絡事項、その他

- ・月例：矢田寺 自然教室：白毫寺周辺
- ・奈良県に年次報告。JR線路側危険樹木の対処
- ・女性会員より2点の要望あり
- 男性会員の用足しは良識をわきまえてほしい
- 腑いとトイレ掃除は男女で協力して行う

以上

次回 6/28(火) 14:00~ 奈良市中部公民館



<厄年>

いつもと変わらない生活していたけど、突然腰痛になりました。病院へ行って痛み止め薬を処方してもらい1~2日で痛みは治まりました。その2週間ほど後、今度は左のかかところが痛くなり再度病院へ。今度は痛み止め薬はあまり効かず、かかるとに負担をかけない生活を強いられています。

「何だかなあ」なんて思っていたけど、ふと昨年行った丹生川上神社で、厄年に70歳過ぎをリストアップしていたことを思い出しました。

調べてみたら高齢化したがつて、昔からいられている数え年で男性の25・42・61歳、女性の19・33・37・61歳に加えて、長寿祝を迎えた年(古希70歳・喜寿77歳・傘寿80歳・米寿88歳・卒寿90歳)の翌年を男女とも高齢の厄年としているようです。

私は今数えて72歳、細かくいえば後厄にあたることとなります。元気なようで、やはり体にガタが来ているようです。

\*\*\*\*\*

**7月ならやま活動&行事予告**

- \* ならやま活動(木)7日 協働活動日
- \* 夏だ!休みだ!里山で遊ぼう 7/16(土)
- 予備日 7/23(土)

会員動向(敬称略)

<入会者> 6/2 柴田 秀男

<ご逝去> 6/7 平田 範光

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎・千載・田中(善)・戸田・豊田・増田

写真説明：楽しみにしていた田植え体験の始まりです。